



論点整理

第二章 質の高い、深い学びを実現し、
分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 ①

中核的な概念等を活用した一層の構造化

論点

より「深い学び」を実現する授業のイメージを教師が
もてるよう、前回改訂の構造化を更に発展させ、

(1) 「知識及び技能」相互、「思考力、判断力、表現力
等」相互の「タテ」の関係、

(2) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」
の相互の「ヨコ」の関係、

を教師が「つかみ取りやすくする」ための改善を行うこ
とが必要である。



検討の方向性

◆ 各教科等の「中核的な概念の深い理解」「複雑な課
題の解決」(以下「中核的な概念等」という。)を中心
に、学習指導要領の目標・内容の一層の「構造化」を図る観点から、「知識及び技
能」、「思考力、判断力、表現力等」に応じた中核的な概念等の具体について、共通性
を重視しつつ、各教科等の特性も踏まえて検討すべき

◆ その際、学校段階や教科等の特性を踏まえつつ、各教科等の中核的な概念等の獲得
に重点を置くために必要な学習内容を検討したり、必要に応じた精選を行う方向で検
討すべき

◆ 構造化は、記載の冗長・複雑さの改善によるスリム化、教科等や学年等を横断した
俯瞰しやすさの向上にも資するものであり、そうした観点も踏まえて検討すべき

意欲的に学ぶ

これ いかん
之を如何せん、
これ いかん もの
之を如何せんと日わざる者は、
われこれ いかん な
吾之を如何ともすること末きのみ。

(訳) どうしたらいいだろう、どうしたらいいだろうという悩みや苦しみをもち、
深く考えない人を、私はどうするともできない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）